情 報 シ ス テ ム 65－1
（1997. 9. 26）

電子情報空間の構築～ネティズンの時代

尾野　徹
ニューコアラ

ニューコアラを取材したある方が、その特徴を以下のように１０項目にまとめて下さった。

当日は、事務局の立場から発足当時からの経緯を述べることによりその責を務めたいと思っていますが、以下の点は、聞いていただく方々にはどのように感じるものなのでしょうか、、、、。

1．コアラは、地域の活性化を願って、１９８５年、ＪＣメンバーを中心に３０人で発足。
「地方にいても（東京にいなくても）生き生きとした社会、、、
自らが主人公の、楽しく満足感ある地域社会」をめざして。
当時、日本国内では珍しかった電子メール、電子掲示板を運転。

2．「データベース」よりも「コミュニケーション」を大事にしたコンピューターネットワークを、地域の社会基盤としてつくることを一貫して追及。
そのために日本語に適した電子会議システムを独自開発。

3．平松守彦大分県知事も賛同し、１９８６年１月から電子メールを利用。
平松知事は、通産省のＯＢで情報化に詳しく、「一村一品運動」という地域興し策等で国内のみならず、国外にも度々招へいされている。

4．大分県内一円から市内電話料金で通信できる“豊の国ネット”を１９８９年秋に完成。
新聞などに「情報道路が大分に出来た」と報道された。

5．サンタモニカ市役所のＰＥＮと一時期姉妹提携し、電子会議交流を実施したり、日本国内の主要地域ネット６局（北海道；道新オーロラネット、東北；コミネット仙台、中部東海；中日ネット、北陸；ライナー富山、中国；Ｃ－ＤＡＳ）で、ＮＮ連合（電子近隣社会）を結成。勿論、ＮＮ連合内で電子会議のコンテンツ交流実施中。

6．日本国内で常に地域情報化のモデル地域として見られていたが故に、１９９３年、通産

省と郵政省、及び、大分県の三者で「ハイパーネットワーク社会研究所」（理事長；公文俊平）を設立。

7．１９９０年より二年おきに未来のネットワークを考える「別府湾会議」を開催。
　アメリカからは、ハワード・ラインゴールド氏、当時スマートバレー公社社長のハリー・ソール氏、ミッチー・ケイパー氏、デビット・ヒューズ氏、等、参加している。
　（１９９７年度は１１月１１－１２日、別府湾ロイヤルホテルにて開催予定）

8．１９９４年7月より、地域ネットとしては日本国内で最初にインターネットサービスを開始。
　当時としては珍しかったその市民利用の状況が日本国内で話題になり、
　「通産省・マルチメディアグランプリ」（９４年）
　「サントリー地域文化賞」（９５年）
などの権威ある賞を受賞。

9．９５年夏よりＮＴＴマルチメディア実験に国内で唯一「地域社会単位」で参加。ビジョンとして『職場や家庭に情報コンセントを！』を掲げ、結果的にＯＣＮをいち早く広域で地域導入。日本最初のＮＴＴ局舎内コロケーション設備設置による地域情報ハイウェイの実現など、ハードインフラを整えてきた。

１０．常に未来の地域ネットの実験地域でありたい、と、様々な活動を続けており、インターネットに映像を流せるスタジオをも併設した事務局『ハイパーステーション』を持っている。
　そこで、地域に密着したLIVEもの、daily、weekly、motnlyに更新されるコンテンツなどを作っているが。
　しかし、基本はコミュニケーションにある、と、現在、ホームページ型のマルチメディア電子会議システム「百聞一見」を開発、利用者に好評である。
（会員数、パソコン通信を含めて約６０００人）